

ネイルアートで指先のおしゃれを楽しみました（詳細はP8）

やすらぎ

題字：佐藤喜次さん筆（特養住民）

No. 36

2007 夏号

平成19年6月25日発行

主な内容

ねんりん	P 2
新規採用・異動職員のお知らせ	P 3
シリーズ「在宅支援を考える」	P 4
地域との二人三脚	P 5
平成18年度決算報告	P 6



誕生日には『わが家』でのんびり

三浦ハルノさんは今から約十年前、自宅で突然脳梗塞の病に襲われました。一時期は非常に重篤な容態だったそうですがなんとか乗り切り、北上病院などでの治療やリハビリを経て、ぶなの園には平成十年、開設して間もないころに入所されました。

北上病院から繋温泉病院に転院するその日、印象深い出来事があったとのこと。それは担当の看護師さんが非番にも関わらず見送りに来てくれて、きれいな花束をハルノさんにプレゼントしてくれたその瞬間です。長い間見ることができなかった明るい表情がパッと戻り、ご家族もびっくりに。移動中もずっとその花束を胸に抱いていたそうです。

年配の方の長い人生の足跡は、楽しいことも、辛いこともすべてその方の『今』を創っているものであり、年輪のように積み重なっていきます。今回は、ご家族からお伺いした特養住民の足跡をご紹介します。

稲作といちご栽培をしながら子どもたちを育ててきたハルノさん。二十数年前はいちごの出荷量が西和賀一で、自宅にはその賞状がいくつも飾られています。天候や害虫などを常に気にかけてながら何十年も農作業を続けてきた苦労は、私たちが簡単に想像できるようなものではないでしょう。

歳をとってからは作業の手伝いをしながら孫たちの面倒をよくみてくれたとのこと。ハルノさんにとって孫たちはかけがえのない宝であり、孫にとってはいつまでもやさしいおばあさんのままだと思います。毎年四月二十日には、ハルノさん

んは生まれ育った内の沢の自宅に帰って一日ゆっくりと過ごされています。というのも、この日はハルノさんの誕生日であり、自宅でのひとときが何よりのプレゼントであるとの家族の考えでずっと続けられているものです。自宅に入るとまず仏様に手を合わせ、お昼には好物の刺身やおは

ぎなどを食べて過ごしているそうです。妹さんや娘さんたちが来てくれることもあるそうで、嬉しそうに微笑むハルノさんの表情が目には浮かびます。

いつまでも元気で誕生日を迎えてもらいたいというのがご家族、そしてぶなの園職員の願いです。



自宅の前で息子夫婦、妹さんと一緒にパチリ！（今年の誕生日のお写真です）



元気に101歳

高橋マツエさん(前郷)

ぶなの園のリーダー的存在である高橋マツエさんが、また一つ歳を重ねられました。六月十六日であると百一歳。自分で歩行することとは難しいですが、肌つやも良く会話の声も大きくて、百歳を超えているのが信じられないほどお元気です。お祝いの席でご家族から「皆さんのおかげで、こうして長生きさせてもらっています」との言葉をいただきました。いえいえ、こちらがマツエさんの姿に勇気づけられているのです。ケーキをおいしそうにペロっと食べてしまったマツエさんにとって、百一回目の誕生日は何も特別なものではないでしょう

春らしいお弁当で食事会



春は何といっても花見。美しい桜は心を癒してくれます。そして桜の下での宴会は格別

な楽しさがあります。その雰囲気も少しでも味わっていただこうと、五月十八日に春の食事会を行いました。一、二丁目の住民は交流スペースに移動、テーブルやステージに飾られた花たちが十分に雰囲気を演出してくれました。メインは春の食材いっぱいの色鮮やかな花見弁当。屋内での食事会ではありましたが、心もお腹も満たされたひとときでした。

ランナーに声援！錦秋湖マラソン



五月の最終日曜日は恒例の錦秋湖マラソン。ぶなの園住民も毎年道路に出て応援しています。ぶなの園の前を走るランナーは、錦秋湖マラソンのコースの中でも一番長い三〇キロの距離を走る皆さんです。ぶなの園は折り返し地点のすぐ手前に位置しており、最も苦しいところかもしれませんが、そのランナーの皆さんに心からの声援を送り、逆に私たちもバ

ワーをいただいています。苦しみの先にある喜び、そこに向かってひた走る姿は本当に美しいものです。

新規採用・異動職員のお知らせ

平成十九年四月一日発令

- 〔新規採用〕
- 石川 大地 …… デイサービスぶなの園介護職員
- 〔異動〕
- 吉田 操 …… 特養ぶなの園看護職員 (デイかたくりの園から)
- 高橋 栄子 …… 特養ぶなの園介護職員 (デイぶなの園から)
- 泉川世理子 …… 特養ぶなの園介護職員 (デイぶなの園から)
- 上中屋敷陽子 …… デイぶなの園生活相談員兼介護職員 (特養ぶなの園から)

※採用は正職員、異動は部署等が変わった職員のみ掲載

辞令交付式



新しい職務に精一杯努めてまいります!!

シリーズ 在宅支援を 考える

1

デイサービスセンター
かたくりの園

昨年度は特養にスポットを当てたシリーズを掲載してきましたが、今年度は「在宅サービス」について全四回で掲載していきます。第一回はデイサービスかたくりの園です。サービス事業所の現場からの声として、その現状や取り組み、課題を取り上げます。

地域に選ばれるために

質の向上をめざして

今年二月二五日、三名の地区の方にかたくりの園の避難経路等を確認していただいた時、「ごさ来て年寄りだ何やつてらべ」、「来てみるごどねえがら、わがらねえしな」との話を聞きました。

地域の方には、かたくりの園の名前は知っているが、どのようなことをして利用者が過ごされているのか、そして建物の中がどうなっているのかがあまり知られていないことに気づかされました。

こうして地域の方の協力により避難経路等を確認できたことは、かたくりの園を知っていただくためにも実施して良かったと思えました。また、地域の協力だけでなく職員一人ひとりもサービスの質を向上させていくことで、安心して利用していただけるように学習する必要があると思ひ、かたくりの園では他の施設見学や講義等で学ぶ外部研修はもちろん、介護技術の基本や福祉の仕事をする上で

大切なことを積極的に学習していただきます。具体的には月一回の自主的学習会と利用者一人ひとりについての状態を確認し、利用者本位のサービスを提供しているようにと介護職の会議も月一回開催しています。そうした学習の積み重ねにより、利用者の方から「上手にやっつけてあげがでごど」とか「ごさ来れば、いろんなごどおべるにえ」など様々な声を聞くことができ、安心して一日を過ごしていただいていると感じています。



大切なことを積極的に学習していただきます。

具体的には月一回の自主的学習会と利用者一人ひとりについての状態を確認し、利用者本位のサービスを提供しているようにと介護職の会議も月一回開催しています。

そうした利用者の声を大切に、これからも利用者が主人公であることを念頭に取り組むことで、利用者にとって居心地の良いところであり、家族にとっては困った時に何とかしてくれるという信頼感を築けるよう努力していきたいと思ひます。

かたくりの園
生活相談員 高橋正広



研修を実践につなげ、事例研究発表会で報告

地域との二人三脚

心身を健康にする民謡が大好き



太田 高橋 和子 さん

地域の方に「こえ」を寄せていただくコーナーです。今回は、ホーム喫茶や行事等で開設当初からご協力をいただき、またご夫婦による民謡でいつも利用者の皆さんを楽しませてくださっている太田の高橋和子さんにお話を伺いました。

民謡は私と夫の共通の趣味、夫が若いころから旧湯田町の民謡同好会に入っており、その影響で私も入会しました。入会当時は主に踊りをしていましたが、民謡を唄うことの楽しさを知り、今では唄も踊りも楽しんで活動しています。民謡は心と身体を健康にする

私は思っています。ぶなの園に訪問したある時、あまり元気がなくうつむいている利用者の方がおりました。ところが民謡を唄い始めたとき、とたん拍手をとってくださり、にこやかな笑顔を見ることができました。かたくりの園で夫が「箱根八里の半次郎」を唄った時には、



かたくりの園忘年会での和子さんと夫の昭士さん

むことにしています。ぶなの園にもこれまでより多くおじやましたいと考えています。また、聞いてもらうだけでなく、三味線に合わせてみんなで唄ったり、簡単な振り付けを考えて一緒に身体を動かしてみたいとも思っています。私は時々利用者の皆さんに、「手のひらを合わせてみてください」とお願いしています。お年寄りの手のひらには沢山のシワがありますが、「シワとシワを合わせることで、『シワ合わせ』つまり『幸せ』がやってくる」とお話ししています。すると利用者の皆さんの表情はたちまち穏やかになり、その瞬間に幸せはやってきているのだと思ひます。

利用者の一人が立ち上がって「俺は箱根に行ったことがある。やっぱり遠いもんだっけ」と懐かしそうに話してくださいました。民謡の節が耳に入ると、自然に拍手が生まれます。身体が自由でうまくできない方でも、動く部分を器用に使って拍子をとってくれます。

今後の予定として、かたくりの園には毎月一回訪問し民謡を楽し

平成19年5月13日 岩手日日 「投稿すくらんぶる」より

『母の教え忘れず長生きを願う』

藤本 千二

親孝行したいときには親は無し。親孝行したくないけど親がいる。そんなことがささやかれる今日。親孝行したいけれどもままならず、といった状況が今の私である。

母は、今の私の年よりもずっと若くして病気で倒れた。その後、体は思うように動かず、入退院以外にはほとんど家から出ることもないまま八十四歳の現在、特別養護老人ホームのお世話になっている。

今では会話は全くできず、私たちとの意思疎通は手を握り返す方法しかない。しかし、母の手のぬくもりは以前と変わらず温かく、しっかり思いは返してくれる。朝は日の出前から、夜は日も暮れてなお元気に働いた母。そんな母を私は「あっちゃ」と呼んで常に付いて回ったものだ。

四季折々に母の姿がよみがえる。春は結いの田植え帰りにおんぶしてくれた母。夏は虫干しのため樟脳のおいのする着物を所狭しと広げる母。秋は稲刈りや脱穀で汗を流す母。冬は炭焼き小屋で父と共に真っ黒になって徹夜をする母。風邪の高熱を押して、私が就職するとき心配で東京まで送ってくれた母。走馬灯のように浮かんでくる。

母へ向かう足は自分の加齢とともに遠ざかるが、思いは逆に募る。できる限り多くの足を運び母の手を握り締め、長生きを願い親不孝をわびたい。母から教わった「思いやり」「勤勉」の心を忘れることなく生き抜くことを誓う「母の日」である。

(一関市巖美町、58歳)

ぶなの園に入所されている藤本タヘ子さん(大荒沢)の二男、千二さんが岩手日日新聞に掲載された文章です。母を想う気持ちが強くと強く伝わってくる内容で、ご本人の了承を得て本誌にそのまま掲載させていただきました。意思の疎通は困難でも、想いはタヘ子さんにきくと伝わっていることと思います。この気持ちこそが本当の親孝行と言えるのではないのでしょうか。

やすらぎ会のフレッシュマン



石川大地

デザイナーぶなの園介護職員

- 昭和59年7月2日、旧沢内村大荒沢生まれ
- 盛岡四高、高崎健康福祉大学を卒業し、この4月からやすらぎ会に就職

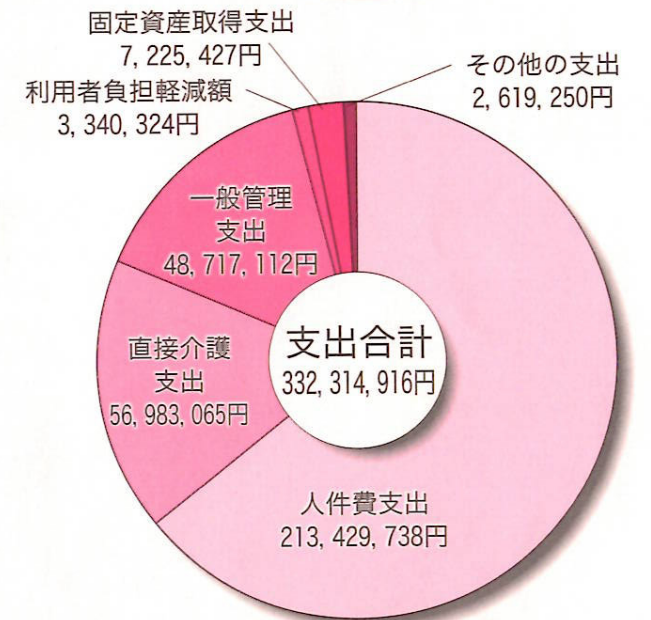
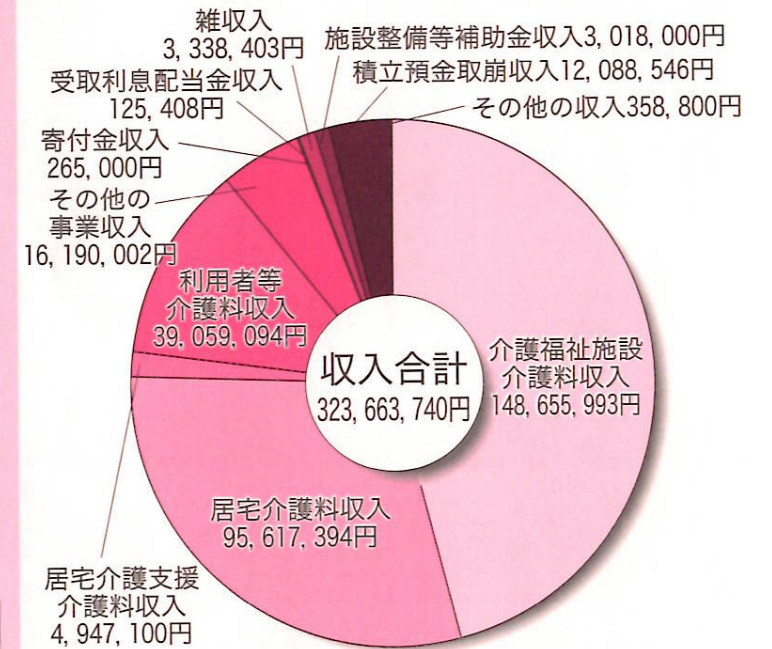
趣味は—— 映画鑑賞。好きなジャンルは秘密です。

自分の性格を一言で—— 細かいことにあまりこだわらない性格。

やすらぎ会に就職しようと思った理由は—— 福祉について学んできたことを地元で活かしたいと思って就職しました。学生時代にボランティアでかたくりの園を訪問していたのもきっかけとなりました。

実際に勤務してみた感想、抱負は—— 介護の奥深さを実感しています。常に謙虚な気持ちを持ち、利用者に信頼されるような職員になりたいです。

平成18年度 やすらぎ会 決算報告



あゆみ

平成19年 3月～5月

3月1日	住民懇談会	3日	理容ボランティア
2日	すしバイキング	6日	県知事・県議不在者投票
6日	理容ボランティア	10日	主任会議
8日	特養内部研修会	15日	特養家族懇談会
12日	第一小学校総合学習	18日	町議会議員不在者投票
13日	主任会議	5月8日	理容ボランティア
14日	在宅家族懇談会	8日	主任会議
16日	ホーム喫茶	~	花見ドライブ
19日	春の彼岸法要	18日	春の食事会
20日	高橋富子さん特養退所(長期入院)	18日	ホーム喫茶
23日	課長会議	21日	法人内部監査
26日	入所検討委員会	22日	課長会議
27日	評議員会	22日	職員健康診断
28日	佐井スズエさん特養入所(新町)	24日	評議員会
4月2日	住民懇談会	25日	理事会
	課長会議	27日	職員パソコン講座
	辞令交付式	27日	錦秋湖マラソン応援
		28日	職員健康診断
		29日	職員パソコン講座
			衣料品出張販売
			職員パソコン講座

和賀川



理事長 深澤貞夫

■五感を刺激し脳を活性化させるには、園芸(ガーデニング)が役立つといわれる。人生は働くためにだけあるのではない。読書、旅行、音楽や演劇鑑賞、絵画、園芸などやりたいことは山ほどある。■日本の特養は、食事、お風呂、医療の三つは整っているが、老人生活に占める割合は三分の一。あとの三分の二は「人間の付き合い、プライベート、おしゃべり、自由な雰囲気、文化的な活動」が大切という。「施設とじこもり」をつくらないためにも、脳細胞を使うこと、使わなければ衰えると... ■園芸は「見る、聞く、味わう、触る、嗅ぐ」の五感すべてを刺激するため、効率的に脳を活性化させるのではないか。文化的な活動としての野菜や花づくりとその世話は、早期「痴呆症」の人に勧められる。変化に富んだ庭づくりなどに参画させたいものである。

表紙の写真

5月20日、西和賀高校生徒の和泉みどりさん、近藤優子さんがぶなの園にボランティア訪問してくださり、特養住民との交流を深めました。マニキュアを塗り、さらに小さくてかわいい花の模様をその上から貼り付けてもらった特養住民の山鼻シマエさん。若者に人気のネイルアートの感想は「まんざらでもない」といったところでしょうか。



平成19年3月～5月

【ご寄付】

・高橋幸一様

【ボランティア等】

- ・どれみの会様 (特養支援)
- ・長瀬野婦人会様 (ホーム喫茶)
- ・泉沢婦人会様 (ホーム喫茶)
- ・太田婦人会様 (ホーム喫茶)
- ・おはなし「きらきら」様 (読み聞かせ等)
- ・高橋佑子様 (デイ支援)
- ・高元睦子様 (デイ支援)
- ・佐々木エリ子様 (デイ支援)
- ・和泉みどり様 (住民交流)
- ・近藤優子様 (住民交流)
- ・高橋愛子様 (デイ支援)
- ・柿沢元気様 (デイ支援)
- ・泉川麻美様 (デイ支援)
- ・有馬キヌ様 (民謡)
- ・深澤ノリ様 (デイ支援)

あたたかい善意を頂戴し
厚くお礼申しあげます

- 特別養護老人ホームぶなの園
- デイサービスセンターぶなの園
- ホームヘルプステーションぶなの園
- 西和賀介護相談室

西和賀町沢内字太田2地割135番地

電話 0197-85-2322

FAX 0197-85-2317

- 高齢者生活福祉センターかたくりの園

西和賀町沢内字大野17地割140番地1

電話 0197-85-3388

FAX 0197-85-3389

(発行・編集)

社会福祉法人やすらぎ会
広報委員会



編集後記

先日、西和賀高校総合学習の授業のお手伝いをさせて頂いた。八名くらいずつのグループをつくり、自分の住む町のここが好き、ここが嫌いなど思うがまましゃべり合うという内容です。ユニークな答えが次々に出てくる中で「湖が一番好き」と答えた生徒が一人。四季を鮮やかに映し出す錦秋湖は西和賀町の宝です。そして湖に負けない綺麗な目で話してくれた生徒たちこそ、我々の宝であると実感した午後の一ときでした。

W・T